

連続3日間施行。しかし、敗血症、DIC、急性腎不全、ARDSを併発し、肺出血で死亡した。

② 45歳の男性。ラタモキシフに誘発された疑い。粘膜病変2。表皮剥離は体表面積の50%。ステロイドと単純血漿交換療法3日間施行。施行直後より皮膚病変の著明な改善を認め、38日の経過で治癒退院した。

③ 83歳の男性。ABPCに誘発。粘膜病変2。表皮剥離は体表面積の30%。ステロイドと単純血漿交換療法3日間施行により皮膚病変は改善されたが、胃潰瘍からの大量出血で死亡した。

④ 23歳の女性。アスピリンに誘発。粘膜病変4。表皮剥離は体表面積の45%。ステロイドと単純血漿交換療法3日間を2クール施行。55日の経過で略治癒した。

【考察】メカニズムは不明であるが、4症例中3症例で単純血漿交換療法の直後より皮膚病変の著明な改善傾向が認められ、うち1症例で胃潰瘍からの大量出血があった。予後を左右する表皮剥離面積の拡大をくい止め、ひいては敗血症、DIC、多臓器不全などの合併・進展を阻止する可能性が示唆された。文献集計でも89.4%の高い改善率があり、血漿交換療法は薬剤性TENに対し有用性の高い手法と思われた。

3. 二重膜濾過法（DFPP）が奏効したTENの2例

瀧本玲子

順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科学教室

TEN (toxic epidermal necrolysis, 中毒性表皮壊死症) は重症薬疹の一型で、致死率は20～30%と高く、予後不良の疾患である。重症化の原因としては、Fas-Fas リガンド系のアポトーシスの発現など、免疫異常の存在が指摘されているが未だ明らかでなく、治療法も確立されていない。現在行われている治療としては、発症初期に十分なるステロイド投与を行うことであるが、その継続により感染症の危険性が増加し、予後悪化の原因となると考えられている。

近年本症の治療法としてアフェレシス療法の有効性が報告されている。われわれは本症2例にDFPPを施行したところ、著明な改善効果を認めたので、その経過・方法などについて報告し、TENの治療法としてのDFPPの有用性について考察する。

〈技術シンポジウム〉

1. 血漿交換療法の基礎と皮膚疾患に対するアフェレシス

矢口 均

自衛隊中央病院皮膚科

2. 吸着による分離操作の基礎

峰島三千男

東京女子医科大学腎臓病総合医療センター

血液浄化部門